

《マレーシア》

〔テロ関連〕 テロ対策部初の女性部長就任：ノルマ・イシャク副部長が昇格

— バイオテロの専門家：警察長官「厳格なプロフェッショナル」 —

2020年2月18日（火）

マレーシア連邦警察公安局テロ対策部（機関コード名は「E8」）のアヨブ・カン・マイディン・ピッチャイ部長がジョホール州警察本部長に異動となる人事が2月6日付で発令されて以来、同国内外の関係当局やメディアが注目してきた後任人事について、アブドゥル・ハミド・バドル連邦警察長官は2月14日、同日付でノルマ・イシャク（Normah Ishak）副部長を昇格させる人事を発令したことを明らかにした。ノルマ氏は、同部で初めて女性のトップとなった。新旧部長の交代式は連邦警察本庁内で同日午前11時に行われ、ノルマ新部長が正式に就任した。



ノルマ・イシャク新 E8 部長

ノルマ氏の詳しい経歴は、役職の性質上も公表されていないが、細菌兵器や生物化学兵器などを使うバイオテロ（bioterrorism）の専門家だとされる。連邦警察にキャリア官僚として入庁した1991年以来、一貫して公安局で勤務し、アヨブ・カン氏が96年にテロ対策部の部長に就任したのと同じ人事異動で同部の副部長に抜擢されている。

海外の関連機関との連携などでアヨブ・カン前部長を補佐しており、昨年（2019年）2月には、国際テロ組織「アルカイダ」と連携してマレーシア国内を拠点に海外でのテロ計画を準備していた「ムスリム同胞団」メンバーのエジプト人5人に対する摘発作戦を陣頭指揮した。

アブドゥル・ハミド長官は、ノルマ氏について、「（部長としての）資格は十分で経験も豊富だ。誠実な人柄を持つ厳格なプロフェッショナルで優秀な指揮官だ」と評価した。また、同部には各分野で専門家の幹部が数十人おり、新部長の任務遂行を補佐する態勢が整っていることを強調した。

シリア国内のマレーシア人 IS メンバーの帰国問題

同長官によると、ノルマ新部長が早急に取り組むべき課題のひとつは、イスラム過激組織「イスラム国（IS）」の活動に参加するためにシリアに渡航したものの、（ISの敗北と支配地域喪失に伴い）現在は難民キャンプなどに収容されているマレーシア人の元戦闘員とその家族計56人の本国送還問題である。

これらの元戦闘員らは、然るべき「脱過激化（deradicalization）」がなされなければ、マレーシア帰国後に新規のISメンバーをリクルートしたり、ISの思想を普及するなどの違法

な活動を行う可能性がある。

インドネシアの場合は、市民に対する世論調査で、シリア国内にいるインドネシア人の IS メンバーや元戦闘員の帰国に反対する声が多く、対テロ当局も彼らを（最近の新型コロナウイルス感染の危機に準えて）国内での「テロのウィルス」になりうるとみなしている。

ジョコ・ウィドド（通称ジョコウイ）大統領を中心とする最近の関係閣僚・機関長の会合では、これらの IS メンバーは「すでにインドネシア国籍を放棄した者たちである」として、（子供などはケース・バイ・ケースで判断するが）原則として帰国を受け入れないとの方針を固めたばかりである。

マレーシアの対テロ当局はシリア国内の IS メンバー・関係者の帰国に関してどのような対応をとるのか、テロ対策部のノルマ新部長にとっても難しい課題となっている。

以上